

学校だより

# プラタナス



令和3年2月25日(木)

市川市立市川小学校  
No.41 校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



## 「がんばろう」を無意識に使っていませんか？

“先生は『がんばろう』を言い換える名人であってほしい。”

これは、日本教育大学院大学の5～6年前のキャッチコピーです。「なるほど！」と感心しますし、そうでなければならぬと改めて思わせてくれる言葉です。

授業では、子供が感想などを書く場面などを意図的に取り入れます。でも、ノートに、「すごい」「おもしろい」「かわいそう」「きれい」という抽象的な言葉ばかりが並ぶといったことも少なくありません。「語彙が乏しいから」という一言で片づけてしまっただけではいけないように思います。より具体的な表現になるように指導・助言を繰り返す、子供の思いが最大限に相手に伝わるような適切な表現を探そうにします。食リポは、まさにこうしたことが凝縮してるようにも思えます。「おいしい」「うまい」で伝えられる人もいますが、感じられた味わいや食感などをどのような言葉を使って視聴者に届けるかが問われます。ただし、言葉のテクニックに陥ってしまうと、料理も視聴者も冷めてしまうのではないのでしょうか。表現を駆使したり工夫したりすることを子供だけに求めるのではなく、大人も意識することが大事だと考えます。

さて、「がんばろう」という言葉ですが、教員だけに限らず、大人が子どもに対して無意識に使ってしまいがちな言葉です。この言葉を使う場合、2つの問題があるように考えます。

一つは、「何をがんばるのか」「どうがんばればよいのか」など具体的なイメージを示さず、あるいはイメージできる材料なしに使われることが多いということです。

もう一つは、そもそも子供たちの多くが、自分は「がんばっている」と思っていますし、実際がんばっている場面が多いということです。がんばっている子供に「がんばろう」「がんばって！」と言うことほど、残酷で苦痛となる言葉かけはないのかもしれませんが。

身近で簡単な言葉にこそ、大人たちはその使い方を十分注意する必要があるようです。安易に「がんばろう」と言うのではなく、その時その場における適切な言葉を探す努力を怠ってはいけないと考えます。でも、「がんばろう」以外の言葉が見当たらないときはどうするかです。その時は、「がんばろう」の前に「いっしょに」というワンフレーズを添えるだけで、優しさや包み込む温かさが伝わるかもしれません。こうしたことを意識しながら続けたいと思います。

自分の思いを伝えられる子供たちを育てるために、まず私たち大人が“言葉かけの名人”“言い換えの名人”を目指しませんか？一緒に！

### ■第70回全国小・中・PTA新聞コンクール『第70回記念特別賞』

5年3組「学習新聞 総合(パラリンピック)・国語・社会」⇒全員の作品応募

### ■健歯児童 6年 K.Dくん, I.Mさん

第2大臼歯まで揃い、治療跡がなく、色艶・歯列・歯肉が美しい学校代表です。

### ■6年生ありがとう集会

明日、各教室で映像の同時視聴という形で行い、感謝を伝えます。

# HSC(ハイリー・センシティブ・チャイルド)をご存じですか



前号では、化学物質過敏症についてお伝えしました。私たちが思い及ばないことに困難を抱える人は少なくないようです。今回は、ハイリー・センシティブ・チャイルドです。

これは、エリン・N・アーロン博士が提唱した概念で、ハイリー・センシティブ・チャイルド(HSC)あるいはハイリー・センシティブ・パーソン(HSP)と呼ばれます。

不登校や引きこもりの一因として、この概念が注目されています。周囲の刺激に敏感な子供たちのことを指し、大人になっても敏感な人はHSPと呼ばれます。どちらも病気ではありませんが、勉強や仕事などの社会生活がつかなくなる場合があります。特に敏感なのは、「五感」と「気遣い」だといいます。

HSCは、人の多い賑やかな場所が苦手だったり、光やにおい、味に敏感であったり、人の気持ちを察しすぎたりするという特徴があります。幼い時にはちょっとしたことで泣いたり、睡眠が浅かったりします。逆に、心配りが上手で、繊細さがあることからうまく自分の感情をコントロールできれば、社会でも優れた才能を発揮する可能性があるのです。性格なのですが、医師の診断を受けると発達障害や不安障害と診断される場合もあるといいます。

友達や先生の発言に心傷つく敏感な子供たちは少なくないようで、周囲からあまり理解されないがために、学校に行くことや友人関係に疲れて、不登校や引きこもりになってしまう可能性があります。ですから、本人や保護者が自覚し、先生や友達など周囲の人に理解してもらうことが必須なのです。

《引用・参考》石蔵文信氏『新学期に注意したい不登校・引きこもりの一因となるHSCとその対応策とは?』

【HSCに関心をもたれた方へ】 下のURLに具体的な事例や対応等が掲載されています

(1) <https://www.sankei.com/life/news/190227/lif1902270012-n1.html>

(2) <https://news.yahoo.co.jp/pickup/6345761>

## Zoom 活用校内研修を実施しました



2月10日(水)の午後、全職員でZoomを使ってみました。

第1部は、職員室でICT支援員の小野寺さんの協力を得て向井教諭を中心に、ID取得とパスワードの設定から始めました。タブレットとルーターの接続からつまづく場面もありましたが、みな真剣です。

第2部は、児童役と教師役に分かれて体験をしました。操作により挙手したりチャットで書き込んだりできることも知りました。

第3部では、校長室と各教室を結んで、ミーティングルームに集まり、接続や映像、音声の状態を確認しました。

これらを通して、接続の乱れが多く確認されましたので、校内で使用する場合の対応が今後の課題としてわかりました。集会や行事で活用できるようにすることが第一の目的でしたので、やって初めてわかる部分があったと考えます。

また、家庭と学校を結ぶ双方向型の学習・コミュニケーションツールとしての活用もできるように進めていきます。

